



ダニエル アトス山修道院

ダニエルは第一回バビロン捕囚の際に、拉致された少年の一人です。おそらく 10 歳未満だったでしょう。拉致したのはネブカドネツアル(治世 605-562BC)の宮廷で働かせるためでした。(1) 王族と貴族という名家の出自であること、(2) 健康で美しい身体性を持っていること、(3) 知識、理解力に富む知能の高さ、さらに(4) 宮廷で仕えるための能力をもっていることが条件でした。(4)の能力はどんなものかと想像しますが、身分の高い人を敬うと同時にそれに物怖じしない柔軟さと気品を持っているということではないでしょうか。ネブカドネツアルはカルデア人の言葉と文書を学ばせ、宮廷の食事を与えて 3 年間教育したのです。イスラエル人は 13 歳で成人と見なされます。この少年たちの中に、ダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤという優れた 4 名がいました。その中でも、特にダニエルは密かに信仰に固く立ち、自らを律し、幻も夢も解くという力さえ持っていました。ダニエルの生涯は紀元前597年に拉致された時から記されています。

ユダの王ヨヤキムが即位して三年目のことであった。バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した。…少年を何人か連れて来させ、カルデア人の言葉と文書を学ばせた。…この少年たちの中に、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤの四人がいた。(1:1-6) 以来、ネブカドネツアル王に 35 年、王国の滅亡の時(537BC)まで 60 年、バビロン王国に仕えたこととなります。

バビロンは、キュロス王(治世 550-529BC)により無血開城され、ダニエルは引き続き、宮廷で仕えています。ペルシアの王キュロスの治世第三年のことである。ベルテシャツアルと呼ばれるダニエルに一つの言葉が啓示された。この言葉は真実であり、理解するのは非常に困難であったが、幻のうちに、ダニエルに説明が与えられた。(10:1) その後、ダレイオス王(治世522-486BC)の治世となり、さて、王国を継いだのは、メディア人ダレイオスであった。彼は既に六十二歳であった。…総督から報告を受ける大臣を三人、その上に置いた。ダニエルはそのひとりであった。(6:1) とあります。単純計算してみても、この時ダニエルは 85 歳以上の長寿であったこととなります。

また、ギリシア王国という言葉がダニエル書に 3 回出てきます。ペルシアは 499BC から 449BC に渡り、三度ギリシア遠征を行っていますから、ここでも単純計算すれば、第一次ペルシア戦争までダニエルが長寿であれば、108 歳になっていたこととなります。

さらにギリシア、マケドニア出身のアレグザンダー大王によって世界の地図は塗り替えられ、ペルシアは滅びました。驚くべきことに、その後を継いだセレウコス朝のアンティオコス IV(治世 175-163BC)を暗示する 聖所を汚し、日ごとの供え物を廃止し、憎むべき荒廃をもたらすもの(11:31) の言葉があります。神よりも自分を高いものとする王が現れることを、密かに記せと命じられています。新約聖書に預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら——読者は悟れ(マタ 24:15) と記されている憎むべき破壊者とは、アンティオコス IV(別名エピファネス)を示していると言われていますから、ダニエルは 5 世紀にわたって、活躍していることとなります。

預言者エゼキエルがダニエルをノア、ヨブと共に「無垢な」、信仰の見本として名前をあげています。異教の異郷で、度重なる迫害を受けても、毅然として、高い知性、深い洞察力、気品をもって王たちに仕え、信仰を守り通したダニエルは、イスラエル民族の誇りであったでしょう。後世の人々の尊敬を受け、レジェンド(伝説上の人物)となっていた預言者でしょう。